

ファンタジー（物語）の「読み方」の基礎・基本から発信へ

— 到達目標（評価基準）を明確にした授業・評価開発（小学校4年生） —

佐藤 洋一（愛知教育大学 国語教育講座）

松木 尚美（名古屋市立正木小学校教諭）

（2005年10月26日受理）

Basic Reading Techniques of Fantasy Fictions for Students and How to Represent Their Own Ideas about The Fictions

— The creation of classes with clear aims and some evaluation systems
with clear standards (For fourth year students in elementary schools) —

Yoichi SATO (Department of Japanese Languages, Aichi University of Education)

Naomi MATSUKI (Masaki elementary school, Nagoya)

要約 児童生徒は多くのファンタジー作品を読んでいる実態があるが、それが国語科学習での物語・小説等の「読み方＝言語技術の基礎・基本指導」と結びついていない傾向がある。人間的な想像力や判断力・考える力やまとめ伝える学力等の「確かな基礎・基本指導」「評価の観点の明確な学び方指導」の欠落は、児童生徒の「読書力の低下」や「読解力の低下」に結びついている。いわゆるファンタジー作品（教材）には多様な形や構造・歴史があるが、“ファンタジー（特にローファンタジー）”と呼ばれる作品群は、作品世界は現実→非現実→現実という「構成」を持ち、9～14歳くらいの時期の中心人物が幾つかの「出来事」と出会い成長する、「非現実」の場面は無意識の葛藤や心理の象徴的な描写等によって描かれる等の特質を持つことが多い。本稿はこれまで漠然とした「読解」「鑑賞」に終始してきた“ファンタジー（特にローファンタジー）”教材の特質を生かし、児童生徒の知的な関心や意欲とリンクさせながら、今日的な読書力や発信・評価能力育成に結びつくような授業・評価開発を実践的に提案するものである。

Keywords : 到達目標（評価基準）、ファンタジー、読書力、評価、学習過程

1 はじめに

— 子ども達の実態と「学び方・評価」上の混乱 —

『ハリーポッター』『ダレン・シャン』等、子ども達は多くのファンタジー作品を読んでいる。また、『千と千尋の神隠し』『ハリーポッター』『ロード・オブ・ザ・リング』等の映画、『ファイナル・ファンタジー』等のゲームが大流行し、ファンタジーブームの現在、絵本や物語だけでなく、アニメやコミック・ドラマや映画・ゲーム等にも、「現代文学的方法としてのファンタジーの方法」と名づけることのできる作品の技術や構造が頻繁に使われている。

児童生徒は、冒険や闘いを通して成長する中心人物の少年・少女に自分を投影させながら、ファンタジーを楽しく読むことができる。

しかし、ストーリー展開だけを追って描写に目を向けることができなかつたり、架空の物語の世界に没頭するあまり、現実と非現実の境界がわからなくなったりする児童も多い。

児童生徒の興味・関心を生かしながら、ファンタジー（物語）を「正確に」「豊かに」読み解き、自分の生き方の再発見や現実認識に結びつくような読書力につながる言語技術を身に付けさせる必要がある。

2 「到達目標（評価基準）」を明確にした授業と評価

(1) ファンタジーの教材性と指導の混乱

ファンタジーでは、複雑で曖昧な現代社会の歪みや人間の深層心理が、設定された非現実空間（空想・夢・無意識・異次元の世界）のなかで、中心人物の冒険・闘い・葛藤等を通して象徴的に描かれる。民話や創作童話等とは違い、現代社会の歪みや人間のあり方等のテーマを作者独特の個性的な表現技術と構造で描く「現代文学の方法」を使って描かれていると考えることができる。

そのため、以下の3点の教材性がある。

- ①ファンタジー（物語）の読み方を教えることは、小学高学年～中・高校で「現代文学の方法」を使って描かれている小説・随筆・古典等さまざまなジャンルの文学作品を読む際の基礎・基本となる。
- ②ファンタジーの理解から発信へのステップを教えることは、絵本や物語だけでなく、アニメ・コミック、映画やドラマ等のメディア情報を主体的に読み解く際にも応用・発展できる。
- ③人間の深層心理や現代の歪みを中心人物の冒険や闘いを通して象徴的に描くファンタジーを読むことは複雑で曖昧な「現実」「自己の内面」を読み解き、再発見することになる。

しかし、現在の教科書教材を活用したファンタジー教材の指導では、ファンタジーの特質や構造を踏まえないままに、物語教材と同じように、場面ごとの心情の読解中心で指導されていることが多い。心情の読み取りだけでは、学んだことが小学高学年以降で小説等を読む際に応用・発展していかないという問題点が見られる。

ファンタジーの魅力（中心人物の変化・作品の構造・表現技術等）を味わわせ、小学校高学年～中学・高校での文学教材（小説・随筆・古典等）やメディア情報の読み方に結び付くようなファンタジー（物語）の読み方の基礎・基本を教える必要がある。

(2) 「理解」から「発信」までの言語技術を

今まで学習の発展として読書紹介や読書郵便、帯紙作り等が行われてきた。また、豊かな読書力を身に付けさせるといった目的のために、朝の読書や読み聞かせ等が行われてきた。

しかし、それらは児童の意欲や活動に任せたものが多く、「何をどのように書け（話せ）ばよいのか」「どこまでできたらよいか」という観点や方法・評価が曖昧である場合が多かった。

真の読書力を育成するためには、「読むこと」が自分の表現（話す・聞く）や読書生活に結びついていくように、「理解」から「発信」までの言語技術を段階的に身に付けさせていくことが大切である。

本稿では、ファンタジー（物語）を「正しく」理解するための観点をモデル学習として学んだ後、自分のお気に入りの本を「豊かに」読み、个性的に発信する段階的な学習過程と、何を学ばばいいのか「学び方」が児童に楽しく身に付く学習シートを提案する。

(3) ファンタジー（物語）の理解から発信へ

— 段階的な学習過程（9時間） —

2つのファンタジー教材「名前を見てちょうだい」（あまんきみこ作 小2・東京書籍）「白いぼうし」（あまんきみこ作 小4・光村図書）を例に、以下のように、ファンタジー（物語）の「読み方」の基礎・基本から発信への段階的な学習過程を構成し、全ての児童にファンタジーの理解から発信までの言語技術を身に付けさせたいと考えた。

①導入・基礎技術（0.5時間）

ファンタジー（物語）の説明と学習意欲の喚起

②基本学習（1.5時間）

「名前を見てちょうだい」によるファンタジーの読み方の理解

③発展的学習（3時間）

基本学習を踏まえた「白いぼうし」の理解

④発展学習（4時間）

お気に入りのファンタジーの選択

自分の立場からのファンタジーの理解から発信・交流・評価

（①～④についての振り返り・評価学習）

3 実践の概要

(1) 児童の実態

①言語能力の差が拡大してくる小学校中学年では、絵本ばかり好んで読む児童と長編の物語を読む児童と二極化してくる。どの児童も楽しく取り組めるように指導事項とポイントを焦点化した学習シートを使って、ファンタジー（物語）の読み方をシンプルに教える必要がある。

②小学4年生の時期に、ファンタジー（物語）の「読み方」を教えることは、中・高校生で小説・随筆・古典等のさまざまなジャンルの文学作品やアニメ・コミック、映画やドラマ、ゲーム等のメディア情報を主体的に読み解く際にも応用・発展できる。

③物語の感想を書く、本の紹介をする等の場面で「感想は別がない。書き方がわからない。」と戸惑う児童が見られる。「読むこと」が自分の表現「書く・話す」に結びつくような、論理的な発信の方法を段階的に教える必要がある。

(2) 学習目標

①ファンタジー（物語）を読む楽しさに気付かせる。

②ファンタジー（物語）を「正確に」「豊かに」理解させる。

③自分が発見したファンタジーの魅力を手分けしやすく発信させる。

(3) 評価基準のポイント — ファンタジー（物語）の読み方の基礎・基本から発信へのステップ —

①正確でなめらかな音読

②新出漢字の読み方、難語句の理解

③状況設定（時代・舞台・登場人物）の理解

④あらすじ、ファンタジー特有の構成【現実→非現実→（現実）】の理解

⑤人物像の理解（中心人物の変化ときっかけ、中心人物と対比人物）

⑥個性的な表現技術の理解（心理・自然・行動描写、象徴的なイメージ）

⑦自分の立場からの理解（「自分の考え」を持つ）

⑧発信・交流（スピーチ報告・情報リテラシー・読書体験）

(4) 学習指導計画（資料1—次頁参照—）

4 教材の特質と生かし方

(1) 「名前を見てちょうだい」でファンタジーの「読み方」の基礎・基本を

「名前を見てちょうだい」は「現代文学的方法としてのファンタジーの方法」をシンプルに示している作品と解釈できる。以下の4点の教材の特質があるため、ファンタジー（物語）を「正しく」理解するための観点（状況設定・あらすじと場面、ファンタジー特有の

資料1 学習指導計画（9時間完了）

段階	時	主な学習活動	評価の観点と指導・支援 <input type="checkbox"/> → 評価基準
導入・基礎技術	1	1 ファンタジー（物語）とは何か説明する。 2 学習のめあてを知る。ファンタジーを楽しく読む観点を学び、自分でファンタジーの魅力をみつけ、友達におもしろさを伝える →到達度チェックリスト(資料2)	1 児童になじみの深いハリウッドシリーズや宮崎駿のアニメ映画『千と千尋の神隠し』等を紹介しながら、ファンタジー（物語）とは何かを理解させる。 2 ファンタジー（物語）を楽しく読むための観点について、到達度チェックリスト（資料2）で確認する。 1 ファンタジーとは何かを理解し、ファンタジーについて興味や関心を持つことができたか。 2 学習のめあてと進め方理解することができたか。
	5	5 中心人物の変化と原因の理解 →学習シート4(資料6) (1)中心人物の変化の様子 (2)変化の原因 (3)会話・行動描写	5 中心人物（松井さん）の変化と原因を理解させる。 (1)中心人物のはじめ・終わりの様子を読み取らせる。 (2)変化の原因を考え、松井さんの優しさに気付かせる。 (3)松井さんの優しさがわかる会話・行動描写に線を引かせ、発表させる。
基本学習	1	1 「名前を見てちょうだい」の範読による全文通読・音読練習・斉読 2 難語句の意味の理解 3 状況設定・場面ごとのあらすじの理解 →学習シート1(資料3) (1)状況設定(時間・舞台・登場人物)の理解 (2)場面ごとのあらすじの理解 4 ファンタジー特有の構成の理解 →学習シート1(資料3) (1)現実→非現実→現実という構成 (2)境界(入り口)の設定	1 すらすらなめらかに音読させるようにする。 2 意味のわからないことばを発表させ、簡単に説明する。 3 学習シート1と発問により、状況設定(時間・舞台・登場人物)と場面ごとにあらすじ(事件)を理解させる。 (1)あらかじめ場面分けと簡単な書き込みをした教材文(略)を配布し、児童の抵抗を少なくする。 (2)学習シート1は、ファンタジー特有の構成を理解しやすいよう、B4用紙1枚にまとめておく。 4 (1)現実→非現実→現実という構成に気付かせる。 (2)児童にとってなじみの深い『千と千尋の神隠し』等の例を挙げ、現実と非現実の境界(入り口)は何かについて話し合わせる。 (3)他にどのような例があるか発表させ、似たような構成になっている作品が多いこと、境界がさまざまな設定されていることに気付かせる。
	2	5 中心人物の変化と原因の理解 →学習シート2(資料4) (1)中心人物の変化の様子 (2)変化の原因 (3)中心人物の変化の意味 6 個性的な表現技術の理解 (象徴的な表現とその意味) →学習シート2(資料4) 7 自分が好きな場面・人物・表現についての感想の記述 →学習シート2(資料4)	5 学習シート2を使い、中心人物(えっちゃん)の変化と原因について読み取らせる。 (1)えっちゃんのはじめ・終わりの様子を読み取らせる。 (2)えっちゃんが大きくなる場面の描写を読み取らせる。 (3)えっちゃんが大きくなった原因について話し合わせる。 6 帽子(名前)を取り戻すということはどういうことかについて自分の考えを書かせ、話し合わせる。 7 好きな場面・人物・表現一つを選び、理由を書かせる。
発展的学習	3	1 「白いぼうし」の範読による全文通読・音読練習・斉読 2 新出漢字・難語句の意味の理解 3 状況設定・場面ごとのあらすじの理解 →学習シート3(資料5) (1)状況設定(時間・舞台・登場人物)の理解 (2)場面ごとのあらすじの理解 4 ファンタジー特有の構成の理解 →学習シート3(資料5) (1)現実→非現実→現実という構成 (2)境界(入り口)の設定	1 あらかじめ場面分けやキーワードを書き込みした教材文(略)を配り、すらすらなめらかに音読させるようにする。 2 新出漢字・難語句について説明を加えながら範読をする。 3 (1)1・2場面を読み、状況設定(場所・舞台・登場人物)について学習シート3にまとめさせる。 (2)場面ごとに斉読・指名読みをした後、発問によりおおまかなあらすじについて理解させる。 4 「名前を見てちょうだい」の学習を想起させる。 (1)何場面からゆめの世界に入るのか、現実の世界に戻ってくるのは何場面かを考えさせる。 (2)現実から非現実への境界(入り口)は何かを考えさせる。
	6	6 お気に入りのファンタジー(物語)の選択 7 2 自分の立場からのファンタジーの理解 →学習シート5(資料7) 8 3 スピーチ原稿の記述 →学習シート6(資料8) (1)はじめ本の紹介 (2)なか1→状況設定とあらすじ構成(組み立て) (3)なか2→心に残った場面・人物・表現 (4)まとめ本の魅力をキーワードで (5)むすび→友だちへおすすめの一言 4 発表の練習と準備 9 5 おすすめのファンタジー発表会 (1)話し方・聞き方の観点の理解 →学習シート7(略) (2)自分や友だちのスピーチのよさの記述 6 学習全体を通してわかったこと・思ったことの記述と発表	1 あらかじめ、いくつかファンタジー(絵本)を用意しておき、児童が選択しやすいようにしておく。自分で紹介したい本がある児童はそれを持ってきてよいことにする。 2 基本・発展的学習で学んだ観点をもちに、自分でファンタジーを読み、学習シート5に記入させる。 3 白いぼうしの紹介文を見本として示し、スピーチ原稿の書き方のポイントを理解させる。 (1)学習シート6には、書くことが苦手な子への支援として、書き方のポイントを載せる。 (2)心に残った場面・人物・表現を2つ書きたい児童には、なか3を書いてもよいこととする。 (3)何を書いてもよい児童には、学習シート5を見ながら助言する。 4 次時の発表会に向けて、スピーチの練習を行わせる。 5 (1)学習シート7(評価カード)で話し方・聞き方の観点を確認した後、グループごとに発表会を行わせる。その後グループの代表児童にスピーチさせる。 (2)学習シート7に自分や友だちのスピーチのよさ(内容・話し方等)について記入し、発表させる。 6 (1)ファンタジーを楽しく読もうの学習を振り返り、学習を通してわかったこと、思ったことを書かせ、発表させる。 (2)今回学習したファンタジー(物語)を読む観点は、今後、自分で本や絵本を読む場合だけでなく、コミック・アニメやドラマ・映画等を読み解く際にも必要であるということを知らせ、学習のまとめとする。
発展的学習	4	1 すらすらとめねらかに音読できたか。 2 新出漢字・難語句を理解することができたか。 3 学習シート3に状況設定やあらすじを表すキーワードを正確に書くことができたか。 4 現実→非現実→現実というファンタジー特有の構成について理解し、現実から非現実への境界(入り口)が強風であることに気付くことができたか。 5 学習シート2にえっちゃんの変化と原因のキーワードを正確に書くことができたか。 6 名前=自分自身という作品の象徴性に気付くことができたか。 7 好きな場面・人物・表現とその理由を詳しく書くことができたか。	1 すらすらとめねらかに音読できたか。 2 新出漢字・難語句を理解することができたか。 3 学習シート3に状況設定やあらすじを表すキーワードを正確に書くことができたか。 4 現実→非現実→現実の境界(入り口)で夏みかんのにおいが繰り返しかれてることを理解することができたか。 5 (1) 中心人物の変化とそのきっかけを学習シートにまとめることができたか。 (2) 松井さんの優しさがわかる会話・行動描写を見つけることができたか。 6 (1) 感覚的な描写を正確に読み取り、絵に描くことができたか。 (2) 色・夏みかんの象徴性について自分の考えを持つことができたか。 7 好きな場面・人物・表現とその理由を詳しく書くことができたか。
	5	5 自分が好きな場面・人物・表現についての感想の記述 →学習シート4(資料6)	7 「名前を見てちょうだい」での児童の感想をいくつか紹介し、感想を書く際の参考にさせる。
発展的学習	6	1 自分で紹介したいファンタジーを見つけることができたか。 2 ファンタジーを読み、学習シート5に状況設定、構成、好きな人物・場面・表現とその理由、本の魅力(キーワード)をメモすることができたか。 3 論理的な構成で、好きな人物・場面・表現が伝わるように詳しくスピーチ原稿を書くことができたか。 4 意欲的にスピーチの練習を意欲的に行うことができたか。 5 (1)話し方や聞き方に気を付けてスピーチ発表会を行うことができたか。 (2)自分や友だちのスピーチのよさを見つけたことができたか。 6 学習全体を振り返り、学習を通してわかったこと・思ったことを書くことができたか。	6 (1)7場面を斉読した後、白いぼうしが飛ぶ場面について正確に絵に描かせ、感覚的な描写について読み取らせる。 (2)初夏のさわやかさや松井さんのさわやかな性格が、白・黄色で表現されていることを読み取らせる。 (3)夏みかんが象徴しているものについて話し合わせる。 7 「名前を見てちょうだい」での児童の感想をいくつか紹介し、感想を書く際の参考にさせる。

構成，中心人物の変化ときっかけ，中心人物と対比人物等）を教えるのに適している。

- ①小学2年生の教材であるため，文章を読むことが苦手な小学4年の児童にも，状況設定・場面ごとのあらすじが捉えやすい。短時間で指導事項をシンプルに絞って学習することができる。
- ②ファンタジー特有の作品の構成（現実→非現実→現実・ローファンタジーの基本構造），現実から非現実への境界（入り口）の設定（強い風）が分かりやすい。
- ③強い意志と勇気ある行動により大切な帽子を取り戻す少女（えっちゃん）の成長物語であるため，中心人物の変化ときっかけが理解しやすい。
- ④自己の喪失と獲得という抽象的なテーマが帽子を取り戻す少女を通して描かれている。帽子＝父母の愛情，名前＝自分自身を象徴しており，象徴的な描写の技術を児童に理解させやすい。

(2) 基本学習で学んだ観点を生かして「白いぼうし」の“正確で”“豊かな”理解を

「白いぼうし」は、『車のいろは空のいろ』シリーズの作品の一つである。このシリーズでは，タクシートの運転手「松井さん」が遭遇する人物（動物）や事件を通して，現代社会の批判，生命・自然の讃美というテーマが繰り返し描かれている。

以下の3点の教材の特質があるため，ファンタジーの一つの応用編として位置付ける。基本学習で学んだファンタジーの「読み方」を生かし，発展学習での自分のファンタジーの紹介（発信・交流・評価学習）につながるように学習を展開する。

- ①ファンタジー特有の構成（現実→非現実→現実？）や，現実から非現実への境界（入り口）の設定が児童にとって理解しにくい。
- ②中心人物「松井さん」は視点人物でもあり，成長した大人であるため，中心人物の変化ときっかけが捉えにくい面がある。
- ③個性的な表現技術（優れた人物描写・自然描写，感覚的な表現，夏みかんの象徴性）の魅力と読み方を教えやすい。

5 指導の実際

(1) 導入・基礎技術（0.5時間）

まず，児童にとってなじみの深い『ハリーポッター』『千と千尋の神隠し』等を例に挙げ，「ファンタジーとは①現実にはあり得ない出来事や冒険・闘いがでてくる②それらを通して，主人公が生きる知恵と勇気を学び，成長する物語である。」と説明した。

次に，到達度チェックリスト（資料2）を配布し，学習のめあて（①ファンタジーの「読み方」を学習する②自分でファンタジーの魅力を見つけ，友達に紹介する）を知らせた。到達度チェックリストは，教材文

の下に付け，毎時間，学習の最初にめあての確認，終わりに自己評価する際に使用した。

学習の目的・方法を児童に明確にすることで，学び方と自己評価能力を育てることができる。

(2) 基本学習（1.5時間）

基本学習では，学習シート1・2を使って，「名前を見てちょうだい」を到達度チェックリストの観点（評価基準）に従って，正確に理解させる。

「名前を見てちょうだい」は，本稿で述べるようなファンタジーの方法をシンプルに示している作品であるため，ファンタジー（物語）を「正しく」理解するための観点を教える「モデル」として適していると考えた。

1時間目には，範読・音読練習，難語句の意味の確認を行った後，まず，発問により，状況設定（いつ・どこが舞台で・だれが出てくるか）を確認した。状況設定をとらえることは，物語や小説を読む上での基礎となる。

次に，学習シート1（資料3）を使って，あらすじを理解させた。学習シートのステップは到達度チェックリストのステップと同じにした。小学校2年生の教材であるため，国語が苦手な児童もスムーズにキーワードを記入することができた。あらすじをこのように1枚にまとめることで，長い文章が一目でわかり，構成や中心人物の変化をとらえる際の助けになる。

その後，児童にとって親しみ深い宮崎駿のアニメ映画『千と千尋の神隠し』の例を挙げ，ファンタジーの一つのタイプは，現実→非現実→現実という構成になっている，現実から夢の世界への境界（入り口）が設定されていることを教えた。すると，『不思議の国のアリス』『となりのトトロ』『猫の恩返し』等，児童はなじみのある物語やアニメから自分で似たような例を探し，次々とうれしそうに発表していた。今まで自分が何気なく見ていた物語やアニメ・映画にファンタジーの方法が使われているということを知ることができた。児童にとって知的好奇心を揺さぶる楽しい学習になる。

最後に，「名前を見てちょうだい」では，強い風が夢の世界への境界であることを読み取らせた。

2時間目には学習シート2（資料4）を使用した。まず，中心人物のはじめ・おわりの様子，変化のきっかけを理解させた後，クライマックスのえっちゃんが大きくなる場面の描写を読み取った。その後，どうして，えっちゃんは大きくなったのかについて話し合ったところ，帽子をとられた怒りや勇気に気付くことができた。中心人物の変化とその意味を理解することは作者の思想やテーマを考える際に重要である。

次に，名前の象徴性について考えさせた。この作品では，名前を取り戻すという現実にはありえない出来事を用いて，自己の喪失と獲得というテーマを描いて

資料5 学習シート3 発展的学習 → 設定・あらすじ, 構成, 人物像の理解

ファンタジー (物語) を楽しく読もう！
「お話を読んでみたい！お話を聞いてみたい！」を聞きながら！

ステップ3 (1) どの話？ 場所はどこ？ 登場人物は？

どの話？	六月の初め
ふたひは どこ？	タクミー
中心人物は？	松井さん
職業は？	タクミー運転手
その他の登場人物は？	女の子 男の子 (たけの たけお) お母さん しんし おまわりさん

ステップ4 組み立て (構成) のひみつを 見つけよう

① 「白いぼうし」もファンタジーの組み立て (構成) になっています。ゆめの世界は何場面からかな？

現実の世界

ゆめの世界

5 場面から

8 場面まで

現実の世界

9 場面

ゆめの世界からゆめの世界への通路 (入り口) は何かな？

ヒント
ゆめの世界に入る前と後の文章をよく読んでみよう。

※

② 現実の世界からゆめの世界への通路 (入り口) は何かな？

百々みかんのにおい

ステップ5 中心人物に注目しよう。

① 松井さんの変化ときっかけについてまとめよう。

【はじめ】 1・2 場面

百々みかん

① だれにもなかったのかな？
② どんな様子 (もの) か分かるように描き直そう。
③ どうしてタクミーにのせているのかな？

④ そんな松井さんどう思う？

優しい人

【変化のきっかけ (事件)】

① 白いぼうし を拾い、男の子の もんしろちよう をにがしてしまふ。そこで、百々みかん を白いぼうしの中に入れる。

② 女の子 をタクミーにのせて助ける。小さな小さな声を聞く。

【おわり】 9 場面

夏みかんのにおいだけ残る。

③ 3・4 場面では松井さんのやさしさを思いやりがあらわれているところ (会話や行動) に線をひきましょう。

タクミーの運転手の松井さんはいろいろなお客さんをおんをのせて走りまわります。な事けんに出あいます。他にどんなお客さんをおんをのせているのかな？ シリーズになっているよ。読んでみましょう。

【おまみかみこ作】
二〇〇〇年四月
ポプラ社

資料6 学習シート4 発展的学習 → 象徴的・感覚的な描写の理解

ステップ6 表現に気をつけて読もう。

① 8 場面では、ゆめの世界が美しく表現されています。この場面についてくわしく読み取っていきましょう。

② 様子が目に浮かぶように上手に描かれています。次の文を絵に表してみましょう。

そこは、小さな田舎の静かな野原でした。
白いようが、二十と三十もいえ、もったくさん眠んでいました。
クローバーが青々と広がりわたる黄色の花の交差したたんぼが、遠くのようになっていました。

その上を、おどろおどろと眠んでいららうをんやうり見ています。松井さんには、こんな音が聞こえてきました。

③ この文章からどんな色がうかんできますか？

④ 松井さんには、どんな音が聞こえてきましたか。線をひきましょう。

⑤ それは、どんな大きさの音ですか。

⑥ だれの声だと思いますか？

もんしろちよう

☆ 美しい自然の様子 (色・動き) が目に見えるように耳に聞こえるように書いてあります。

② 松井さんのさわやかな人がらや、初夏のさわやかさが物語のなかでは、色で表現されています。何色で表現されているでしょう。

白 色

③ この作品では、夏みかん (のにおい) がくり返し表現されています。

① 夏みかんが出てくる場面は四つあります。見つけてみましょう。

1 2 4 9 場面

② 夏みかんの描写を抜き出しましょう。

色ーあたたかー日光をささめさめたような見事なにおいーすばいにおいー

③ 夏みかん (のにおい) は、何を表しているのかな？ 考えてみよう。

④ 初夏 (はつあき) のさわやかさ
母の愛情
松井さん
やさしさ
あたたか
さわやか

⑤ 好きな (気に入った) おもしろいと思った 場面 理由も書けるといいね。

すきな人物は松井さんです。理由はやさしいからです。白いぼうしが車道におちてぼろしの中のもんしろちようをにがしてしまて車の中がやさしいな。おまみかみこ。

いる。小学校4年生には少し難しいかと思われたが、「名前＝自分自身・自分の存在」であることに3分の2の児童が気付くことができた。

最後に、自分の好きな場面・人物・描写について感想を書かせた。常に自分の考えを持ちながら読むことは読書に対する主体的な態度を育てる。好きな人物には、えっちゃんだけでなく、大男・きつね等をあげる児童もあり、児童の個性が発揮される場所である。

(3) 発展的学習（3時間）

基本学習で学んだファンタジーの「読み方」を生かして、学習シート3・4を使って、「白いぼうし」を「正確に」「豊かに」理解させる。基本学習と同様に、到達度チェックリストのファンタジーを読む観点に従って学習を進めると、児童に到達目標（評価基準）が明確になる。

発展的学習の1時間目には、学習シート3（資料5）の上半分を使用した。まず、十分な音読、難語句や新出漢字の確認を行った後、状況設定について読み取らせた。2回目の学習なので、児童はスムーズに状況設定を読み取ることができた。

次に、「白いぼうしでは何場面から夢の世界に入っている、何場面で現実の世界に戻ってくるでしょう。」と発問し、教師の範読を聞きながらファンタジー特有の構成について考えさせた。「白いぼうし」は、「名前を見てちょうだい」のように現実→非現実→現実という明確な構成になってはいないため、児童の意見も最後の9場面が夢、現実の2つに分かれた。そこで、現実か夢の世界なのかかわからないように余韻を持たせて終わっていること、ファンタジーにはいろいろな構成があることを知らせた。その後、現実と非現実の境界が“夏みかんのにおい”であることを読み取らせた。

2時間目には学習シート3の下半分を使って、中心人物について理解させた。松井さんは、中心人物兼視点人物であり、成長した大人であるため、えっちゃんのように、大きく変化しない。そのため、ここでは、松井さんの人物像を描写に線を引かせながら、丁寧に読み取らせた。

3時間目には、学習シート4（資料6）で、この作品の魅力の一つである個性的な表現技術（①自然描写・感覚的な表現②夏みかんの象徴性）の読み方を理解させた。描写や表現技術を読むことは、小学校高学年から、中学・高校にかけては大切なポイントになる。

白いちょうが飛ぶ8場面は、視覚や聴覚という感覚的な表現を使って、四角い建物・大通りとは対照的に、自然や生命が幻想的に美しく描かれている。ステップ6の②にあるように、絵に描かせるという手だてをとることで、児童は楽しく描写に注目しながら読むことができた。

次に、夏みかんが出てくる場面・色やにおいの描写を正確に読み取らせた後で、夏みかんの象徴するもの

について話し合わせた。児童は、「おふくろの愛情」「夏というイメージ」「松井さんのやさしさ」「さわやかさ」を表していると豊かに読むことができた。

最後に、好きな人物・場面・表現について自分の考えを書かせて、発表させた。

(4) 発展学習（4時間）

発展学習では、基本学習・発展的学習で学んだファンタジーの「読み方」を生かし、自分が好きなファンタジーを読み、その魅力を分かりやすく発信する（書く・話す）学習を行った。

1時間目には、自分の好きなファンタジーを選択した。絵本から物語までいろいろな種類のファンタジーから、あらすじや構成が理解しやすいものを学校や市の図書館から借り、教室の後ろにコーナーを設けて支援した。9人の児童が自分から『杜子春』『黒ねこサンゴロウ』等のファンタジーを探して持ってきた。

2時間目には、学習シート5（資料7）の項目にしたがって、ファンタジーの魅力を分析させた。②状況設定、③ファンタジーの構成（組み立て）と境界、④好きな人物・場面・表現は、基本学習・発展学習で学んだ観点と同じなので、全員が記入することができた。

3時間目には、学習シート5を見ながら、スピーチ原稿を書かせた。一番最初に、スピーチ原稿の見本を示し、論理的な構成で書くこと、「はじめ」で本の紹介、「なか1」で設定と構成、「なか2」で好きな場面・人物・表現、「まとめ」で本の魅力、「むすび」でみんなへの紹介を書くことを確認した。

次に、学習シート6（資料8）を配布してスピーチ原稿を書かせた。スピーチ原稿には、書くときのポイント（評価基準）を示しておいた。前時に観点に従ってメモしてあるので、ほとんどの児童が、スムーズに書くことができた。書けない児童には、個別に支援した。構成や型を教えると児童の個性が失われるのではという意見もあるが、選んだ場面や人物にその子らしさや個性が表れる。

4時間目には、学習シート7（略）を使って、おすすめのファンタジーの発表会をグループごとに行った。自分と友だちの発表について評価させた後、学習全体を通してわかったこと・思ったことを記述・発表させ、学習のまとめとした。

6 実践の考察

(1) なぜファンタジー（物語）の読み方を教えるのか？

子どもたちは多くのファンタジー作品を読んでいる実態がある。しかし、これらの作品を「正確に」「豊かに」読み解く方法の基礎・基本や生き方の再発見や現実認識につながるような読書の言語技術は十分教えられているとは言い難い。

児童にとってなじみが深く、興味・関心の高いファンタジーを取り上げ、ファンタジー（物語）の読み方

を教えること（本稿ではいわゆるローファンタジーの基本構造と国語学力としての「読み方」の言語技術、それを論理的に発信する技術）は、物語や民話、創作童話だけでなく、中・高校生で小説・随筆・古典等の文学作品を読む際やアニメ・コミック、映画等のメディア情報を主体的に読み解く際の基礎・基本となる。

また、ファンタジーでは自己の喪失や獲得、友情等のテーマや現代社会の歪みや批評が、現実にはあり得ない冒険や闘い等を通して象徴的に描かれる（無意識の世界の描写、シンボリックな虚構化の方法とすることができる）。自己の生き方や社会に対するものの見方や感じ方が拡大する時期にファンタジーを読むことで、児童は複雑で曖昧な「自己の内面」「現実」を読み解き、再発見する一つの契機とすることになる。

(2) 4段階の学習過程の有効性

導入・基礎技術（ファンタジーの特質・構造の理解）→基本学習（ファンタジーの「読み方」の観点の理解）→発展的学習（「読み方」の観点を生かした理解）→発展学習（自分の立場からの理解・選択・判断・構成・発信・評価）という4段階の学習過程で学習を進めたことにより、児童の実態に合わせ、「理解」から「発信」までの学び方を身に付けることができた。

今回の実践では、児童が、基本学習や発展的学習で学んだファンタジーの「読み方」の観点に基づき、発展学習で自分のお気に入りのファンタジーを読み、進んでスピーチ原稿を書いて紹介をする姿が見られた。

こうした学習過程で今後も学習を進めていくことにより、漠然とした教材の「理解」「鑑賞」に終わらず、読書スピーチや日常の読書活動へと応用・発展することができ、児童の読書力や発信・評価能力を伸ばすことができると考える。

(3) 学習シートの有効性

「何を学習すればよいのか」が目に見えるように、指導事項を焦点化した学習シートを活用したことにより、文章を読む・書くことが苦手な児童も、意欲的に学習することができた。

学習後の児童の感想でも、

- 話の設定がとてもよくわかった。自分でも設定が見つけられた。(7人)
- ファンタジーにはきちんと構成があるということがわかった。(10人)
- 登場人物や舞台・構成など（本を読むときに）いろいろなることをこういうふうには読めばいいんだなということがわかった。

等に見られるように、ファンタジーの読み方や学習の方法がわかり満足する姿が伺えた。

これは、到達度チェックリストを児童に示し、その項目に合わせて、基本学習・発展的学習・発展学習での学習シートを作成したことにより、児童にファンタジーの読み方の基礎・基本を身に付けさせることがで

きたためだと考える。

7 おわりに

現在、「読解力低下」が問題視されるとともに、主体的で豊かな読書力の育成が求められている。今回、児童生徒にとって興味関心の高いファンタジー教材を取り上げ、ファンタジー教材の理解から発信への言語技術・評価能力を身に付けるために、4段階の学習過程と到達目標を明確にした学習シートを提案した。

児童生徒の実態や知的な関心や意欲とリンクさせながら言語技術を身に付けさせていくことで、豊かな読書力を育てることができると考える。

〈付記〉

本稿は、松木による第68回国語教育全国大会（日本国語教育学会主催、2005年8月8～9日、青山学院大学）での発表内容を補筆・修正したものである。

なお、紙面の制約上、児童のスピーチ原稿やスピーチ資料としての写真、作成した学習シートの細部に関する詳細と考察は省略したことをお断りする。

〈主な参考文献〉

- 1 佐藤洋一・鈴木悟志「実践・文学を〈情報〉としてとらえる発信型の国語科学習」（『愛知教育大学研究報告第50号』愛知教育大学 2001・3）
- 2 佐藤洋一・陸山江梨子「事実・生き方の記録（ノンフィクション）の「学び方・評価」学習」（『愛知教育大学研究報告第54号』愛知教育大学 2005・3）
- 3 佐藤洋一「物語を楽しく読もう！ーファンタジーの『正しく』『自分らしい』読み方の学習ー」（愛知県大口南小学校講演資料 2004・6）
- 4 佐藤洋一 連載「到達目標としての『言語技術』」（『教育科学国語教育』明治図書 2003・4～2004・3）
- 5 佐藤洋一編著『国語科を核に総合的学習を創る』（明治図書 2000・4）
- 6 佐藤洋一編著『実践・国語科から展開するメディア・リテラシー教育』（明治図書 2002・9）
- 7 松木尚美 グラビア「読書に親しむ授業づくりー情報を正しく豊かに『読む技術』をー」（『教育科学国語教育』明治図書 2005・8）
- 8 松木尚美「物語の『読み方』の基礎・基本から発信へ」（『同上』2005・5）
- 9 松木尚美「基礎・基本から発展までを段階的にーコミュニケーションモデルの理解から発信へー」（『同上』2005・2）
- 10 松木尚美「ことばによる関係・つながりの発見」（『同上』2004・7）
- 11 リン・カーター（中村融訳）『ファンタジーの歴史』（東京創元社 2004）
- 12 小谷真理『ファンタジーの冒険』（筑摩書房 1998）
- 13 井辻朱美『ファンタジーの魔法空間』（岩波書店 2002）
- 14 井辻朱美『ファンタジー万華鏡』（研究社 2005）